

“アラセブン” (AROUND 70s) 頑張る!

関西支部「造船資料・用具の調査・保存委員会」

活動紹介

関西支部内委員会として 2007 年 10 月発足

活動を担っているのは関西支部 Kシニア “アラウンド 70 歳” のボランティア

関西支部 Kシニアとは； 60 歳以上の支部会員活動

現在活動中グループ； 海友フォーラム・教育支援・翻訳・ゴルフ・保存グループ

保存委員会メンバー

藤村 洋 (委員長)

泉 江三・内田 誠・岡本 洋・大谷 昇一・川崎 邦夫・木村 文興・黒井 昌明・鹿瀬 博・城野 隆史・島本 幸次郎
杉山 和雄・谷田 光彌・南波 壯八・松永 明 (計 15 名)

アドバイザーメンバー；

池田 良穂 教授(大阪府大)・石田 憲治 教授(神戸大)・内藤 林 名誉教授 (阪大) (計 3 名)

活動内容・成果・見えてきたこと

収集・保存活動

関西支部会員・各社にお願い発信⇒収集

⇒保存 (場所：神戸大学海事博物館)

⇒整理・分類 ⇒ドキュメント作成

⇒デジタル情報化

⇒HP 発信「デジタル造船資料館」(一部公開済み)

将来： 展示・公開

寄付申出数：個人 40、団体 10、計 50

品物点数：3~4000 点

調査活動

* 収集物の使用法、関連情報などの調査
使用経験者からの聴取、社史その他文献調査

'08 / 8 HP 公開の為集中作業実施

* 国内外の海事資料収集保存活動の実情調査

「船の科学館」

「舞鶴館」

「大和ミュージアム」 見学

英・Dock Museum の Policy 調査

- * 日本造船業の発展過程を語る「歴史の一次資料」が埋没・消滅しそうになっている
- * 国内各地に多数の海事関連の博物館・記念館・資料館があるが小規模
- * 欧米には本格的・大規模博物館がある



集収集品の保管例 (1)



収集品の保管例 (2)

JASNAOE 関西支部：造船資料・用具の調査・保存委員会 (略称：保存委員会)

ホームページ：検索サイトからアクセス

デジタル造船資料館

検索

問い合わせは：ホームページの <投稿> デジタル造船資料館ホームページ担当をクリックしてメールを！

ホームページ「デジタル造船資料館」の紹介

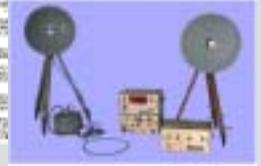


メインページ



保存資料閲覧ページ例

ここをクリックで詳細画面表示



詳細解説画面例（マースメック機器）

活動の過程で分かったこと

歴史研究を含む造船分野リベラル・アーツに取り組む人は大勢いる！

造船工業史・発展史研究は各所で行われている

- * 日本海事史学会
- * 個人・グループでの研究；
 - 東京：海事技術史研究会・Verkehr クラブ
 - 神戸：海上交通システム研究会“MTS”・海友フォーラム
- * 市町村史（神戸、横浜、横須賀、函館、新潟、呉など）
- * 近代工業史研究者；（「船の科学技術革命と産業社会」：松本三和夫氏ほか）

趣味の分野でも海・船に関心を持つ人は多い・・・広い裾野がある

- * 模型製作・文学・絵画・海・船にまつわるものの蒐集
- * 海事博物館の情報収集、探訪

リベラルアーツ ～ サブカルチャーを包含した
幅広い活動で学会を賑やかに！

ひいては次世代若者の造船への参画につながる

リベラル・アーツ とは
「時代を生きる力 = 本質をとらえる知・他者を感じる力・先頭に立つ勇氣」
知を構造化し、俯瞰せよ！！

東大 小宮山総長
朝日新聞付録「Globe」'09/1/26 より

今後の課題

造船資料・用具の保存活動の本格的推進!

英国などに比べて日本の海事歴史資料保存は遅れている!

Preserving the Past for the Future !

(英国 "Tyne and Wear Archives Service" のスローガン)

20 世紀のトップ造船国日本

アジアの先進造船国としての文化的責任である

日本の歴史一次資料 = 世界の資産
消滅・散逸防止を!



資料・用具の組織的保存



歴史の研究・編纂 と 世界への情報発信

今迄の活動は“ 試行 ”  力を合わせて本格的推進へ
各支部類似活動の勉強
保存についてのコンセンサスの確立
寄贈拡大への協力お願い

散在する資料・用具の所在把握とデータベース作成



デジタル・ミュージアム (英文で世界へ発信)
デジタル情報がなければ
事実は存在しないことになる!